

## 第6章 今後の課題と対応方針案

本章では、過年度業務及び本年度業務によって得られた知見を基に、再生可能エネルギーの導入ポテンシャルやゾーニング基礎情報等に関する今後の課題と対応方針案について取りまとめている。

### (1) 地中熱利用（ヒートポンプ）のゾーニング基礎情報の整備に関する課題と対応方針案

地中熱利用（ヒートポンプ）に係るゾーニング基礎情報は、本年度で概ね整備が完了した。地中熱利用（ヒートポンプ）のゾーニング基礎情報は全国一律に整備されていることが少なく、また整備されていたとしても精度の面で課題がある。今後は必要に応じて個別地域情報の追加等により精度向上を図っていくことが望まれる。

### (2) 中小水力発電に係るポテンシャル分析ツールの設計・作成に関する課題と対応方針案

本年度は中小水力発電に係るポテンシャルデータのユーザビリティを高めるため、全国の河川の任意の仮想発電所にて流量や落差の把握、設備容量の算定が可能な分析ツールを作成した。本分析ツールの妥当性を検証した結果、一定レベルの情報収集・分析ができることがわかったが、さらに利便性を高めるためには取水点・放水点の設定や導水管路の編集、再計算機能等に課題があることがわかった。今後は現場ユーザーの視点からの検証も実施し課題を整理し、改善を重ね自治体や発電事業者にとってより使い勝手の良いツールとすることが求められる。

一方、ポテンシャルの推計方法について、アドバイザーより修正意見を頂いた。以下に列挙する。今後は必要に応じてこれら指摘を踏まえ推計方法を見直し、ポテンシャルを再推計することが望まれる。

#### ○維持流量の見直し

本調査では維持流量を  $0.25\text{t}/100\text{km}^2$  として使用可能水量を設定し導入ポテンシャルを推計しているが、近年の開発状況を踏まえると  $0.6\sim 1.0\text{t}/100\text{km}^2$  が一般的である。

#### ○工事費用算出式の見直し

近年、固定価格買取制度を背景として小規模な小水力発電の事例が増加しており、これら規模における有用なコストデータがいくつか公表されている。これらデータ用いればシナリオ別導入可能量の精度向上が期待される。

### (3) 再生可能エネルギーに関するゾーニング基礎情報等の公開に関する課題と対応方針案

本年度は情報公開ページに最新データを反映するとともに、サイトの利便性向上という視点から、ページ構成及びメニュー項目の見直しを行い、「地図画面への容易なアクセス」、「各メニューの視認性の向上」などに取組んだ。次年度以降はさらにユーザビリティを高めるため

Web システムの構築を具体的に検討していくことが求められる。

ポテンシャル情報については、例年推計方法について多くの問合せが寄せられる。その多くは推計方法がよくわからない、過年度報告書のどの頁を参照すれば良いのかといった問合せである。推計方法は再エネ種によっては複数の報告書を参照する必要があり、はじめてのユーザーにとっては理解に時間を要する。本課題に対しては、各再エネ種の推計方法の概要を取りまとめた資料を作成するといった対策が考えられる。

#### (4) 再生可能エネルギーの導入実績に係る調査

本調査では、再生可能エネルギーの導入実績に係る調査を行った。特に自家消費型の再生可能エネルギー設備については、十分に把握されていないことから複数年にわたる調査方法を立案し、今年度は予備調査を実施し調査方法の有効性を検証した。その結果、一定程度情報を収集できる可能性は示唆されたが、アンケート回答者からは「目的がよくわからなく回答しにくい」、「調査対象該当の再エネ設備が多く回答が煩雑」等の回答が得られたことから、本調査では目的や調査結果利用方法の明確化、回答の簡易化等に取り組むことが求められる。

(了)